

令和元年6月27日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 令和元年6月27日(木曜日)

午後3時から午後4時まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席委員

教育長 金澤 俊道 委員 鷲尾 達雄 委員 羽賀 友信
委員 青柳 由美子 委員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	小池 隆宏	子ども未来部長	波多 文子
教育総務課長	曾根 徹	教育施設課長	遠藤 雄一
学務課長	笠井 晃	学校教育課長	中山 玄
学校教育課主幹兼管理指導主事	高橋 和久	学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之
学校教育課主幹兼管理指導主事	丸山 巧	中央図書館長	山田 あゆみ
科学博物館長	小熊 博史	子ども家庭課長	田中 剛
保育課長	田辺 亮	青少年育成課長	斎藤 裕子
スポーツ振興課長	水内 智憲	学校教育課企画推進係長兼指導主事	小嶋 修

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	安達 紀子	教育総務課長補佐	植村 裕
教育総務課庶務係	小林 理恵		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について

7 会議の経過

(金澤教育長) これより教育委員会6月定例会を開会する。

◇日程第1 会議録署名委員について

(金澤教育長) 日程第1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第19条第2項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

(金澤教育長) 本日は議事案件がないため、協議報告事項に移る。最初に、曾根教育総務課長から発言を求められているので許可する。

(曾根教育総務課長) 毎年6月定例会において、6月議会における教育委員会関係の質問事項について報告しているが、今年は市議会議員選挙の関係で議会の日程がスライドし、所管の委員会が一昨日開催され議会の会期中である。このため、7月の定例会にて議会での質問事項を報告することを了承いただきたい。

(金澤教育長) 次に、教育委員会関係工事等の入札状況について 事務局に説明を求める。

(遠藤教育施設課長) 豊田小学校校舎増築工事について説明する。児童数の増加に伴い校舎の教室が不足してくることから、増築工事を行うものである。契約金額は、2億1,615万円で、今年度中の工期を見込んでいる。

(金澤教育長) 今後、第三者委員会の審議結果をいただき、新たな入札制度となるが、本工事の入札については、従来の入札制度で行った入札である。

(金澤教育長) 質疑、意見はないか。

(金澤教育長) 豊田小学校は児童数が増加しているので、早期に校舎を増築し、受

け入れ態勢を整えてほしい。

(金澤教育長) 次に、高等総合支援学校生徒の通学支援について 事務局の説明を求める。

(笠井学務課長) 高等総合支援学校に通学している生徒のうち、自力通学が困難な生徒を対象にジャンボタクシーを市で手配し、通学を支援するものである。7月1日から開始し、対象者43名のうち、希望があった9名が利用する。川東地域運行ルートが5名、川西南地域運行ルートが4名である。利用を希望しない方の理由は、現在、自力で路線バスで通学する習慣ができているためや、人へのこだわりがあり運転手や同乗者に迷惑をかけそうなため、などであった。今後もニーズを把握しながら、改善に努めていきたいと考える。

(金澤教育長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 乗務員1名が乗車するとあるが、この乗務員は学校の教員なのか。

(笠井学務課長) 教員ではない。タクシー会社から1名用意していただいて、運転手のほか乗務員1名が乗車する。

(金澤教育長) この予算を組む際に、対象者43名として、ジャンボタクシー3台を予定していたか。それとも、対象者43名から学務課で利用する可能性が高い人数を割り出したうえで、3台を予定して予算を組んだのか。

(笠井学務課長) 対象者は43名だが、学務課としてはジャンボタクシー3台の乗車人数である24名くらいの方が利用を希望されると想定していた。対象の重複障害学級1・2(1年次)及びB・Cコース(2・3年次)の教育課程で学んでいる生徒の中には、ジャンボタクシーに乗車できない車いすの方も含まれている。利用の希望を伺い、想定人数を超えるようであれば、こちらで利用者を厳選する予定で考えていた。

(金澤教育長) 43名が対象ではあるが、高等総合支援学校と学務課・学校教育課で相談した中で実際に利用される方は20名前後であろうと予算を組んだが、実際に希望を募ったら9名であったということか。

(小池教育部長) 学校の方から症状と家庭の状況を鑑みて想定された人数が20名程度だったため、3台の想定で予算を組んだ。このタクシーの利用料については、新潟県特別支援教育就学奨励費(通学費)で全額補てんされるため、実質的な保護

者負担は生じないが、一時的に立て替える必要がある。月額利用料が高額であることから、利用を断念する保護者の方もいた。

(金澤教育長) 想定していた利用希望人数が 20 名前後だったところ、実際の利用希望人数は 9 名で想定の 5 割程度であった。利用料金についても、認定に時間がかかるため、数か月分の立て替えが必要であり、保護者の方の負担となるので、改善の余地があると考えます。今まで要望の大きかった、高等総合支援学校に通学する障害が重い生徒の通学支援について、一歩踏み出したという点においては非常に意味がある。当初、国はこの補助について難色を示していたが、中山元学務課長補佐と米山現学務課長補佐が粘り強く文部科学省とやり取りし、認めてもらった。他の自治体では行っていない。全国で長岡市だけが行っている取組である。もう少し利用していただけるように改善していければ良いと考える。

(金澤教育長) 次に、令和元年度 熱中！感動！夢づくり教育「学校・子どもかがやき塾事業 夢企画事業」について 事務局の説明を求める。

(中山学校教育課長) 学校・子どもかがやき塾事業の、学校計画事業と校長裁量事業については、全ての市立学校に 1 校あたり平均 38 万円を裁量予算として配当し、子どものやる気や学ぶ意欲を引き出すために各校が創意工夫を凝らして特色ある教育活動を実施するための財政支援をするものである。夢企画事業は、この配当予算とは別に、各校で夢のある取組を企画した学校に対して更に財政支援するものである。内容を審査し、基準額が 40 万円のビッグ夢企画、20 万円のミドル夢企画、10 万円のミニ夢企画とし予算配当している。選考は、子どもたちの夢と自信、やる気や意欲につながる企画であるか、子どもの願い、保護者、地域住民の願いを反映しているか、子どもたちの表現力の育みを高めるための工夫や充実が図られているかを観点とした。第 1 次審査会は外部審査員 2 名の協力をいただいた上で行った。企画の内容を審査していく過程の中で、教育活動の拡充や、改善など新しい視点が入り入れられた企画が見られたので望ましかった、また、体験活動の充実が重要だが、その準備やまとめなど前後の活動を充実させることにより、子どもに力が定着するようにしてほしい、などの意見があった。この審査の結果を踏まえ、第 2 次審査を行った。予算の範囲内で学校の企画が生かせるように経費の内容を細かく吟味し、配当予算の調整を行った。その結果、採択校数は小学校 36 校、中学校 17 校で

あった。ビッグ夢企画として採択した学校は、小学校3校、中学校4校であった。また、初めて夢企画に取り組む学校は、大島中学校1校である。今後も各校の特色を生かした創意工夫と教育活動の広がり・発展を期待している。

(金澤教育長) 質疑、意見はないか。

(青柳委員) 基準額の3つのランクは、各学校が自分たちで計算して応募し、それが適当と認められて採択結果のランクとなるのか。

(中山学校教育課長) 各学校が応募の段階で基準額のランクを判断しており、その内容を審査している。応募のあった学校全体に予算をつけてあげたいという気持ちと、事業を精査しビッグ夢企画に該当するのであれば満額配当することで計画どおりの取組が実施できるのではないかという思いとで、どのように折り合いをつけていくのかが課題であると考えている。

(青柳委員) 新規で応募があった学校が大島中学校1校だけということだが、学校が企画さえしてくれれば子どもたちが色々な体験ができるのに、学校間で不公平が生じるのではないか。この点においての学校への働きかけは何か努力しているのか。

(中山学校教育課長) 各学校の教育課程の中でどう位置付けしているかといった点もあるかと思うが、その点も含めて学校自身の思いや考えが重要と考えている。なるべく多くの学校から応募してもらいたい、という思いはあるが、教育委員会から必ず全部の学校が応募するように強制はしていない。

(金澤教育長) 他に、質疑、意見はないか。

(金澤教育長) 次に、オーストラリア競泳チームの事前キャンプ受入れと市民交流について事務局の説明を求める。

(水内スポーツ振興課長) 平成29年3月に長岡市とオーストラリアの水泳連盟で締結した連携協定に基づいて、オーストラリア競泳チームドルフィンズのキャンプを受け入れるものである。子どもたちとの交流も予定しているので、本日はその報告も行いたい。受け入れは昨年のパシフィックに続き2回目である。今回のキャンプは7月9日から16日まで、ダイエープロビスフェニックスプールにて行われる。来岡者はオーストラリア水泳連盟CCOのほか、競泳チーム55人である。この中には100メートル自由形で世界記録保持者のケイトキャンベル選手や、リオオリンピックのメダリストも多数含まれている。7月21日から28日まで韓国で開

催される「2019 F I N A世界水泳選手権」に向けた事前キャンプである。現在、選手の宿泊先であるホテルニューオータニのある駅東口周辺に応援フラッグや国旗を歓迎装飾として施している。市民交流の予定については、7月13日に市民に練習を公開し、終了後、写真撮影やサインに応じる。また、7月10日に選手が練習でプールを訪れる際に栖吉小学校6年生がプールで選手を歓迎し、同日に四郎丸小学校6年生と浦瀬小学校5年生がサブプールで水泳授業を行った後、プールで選手と交流する。また、7月11日に同国競泳チームのコーチが栖吉小学校を訪問し5年生に水泳指導を実施し、終了後、子どもたちと学校給食を食べる機会を設ける。次に、7月13日にダイエープロビスフェニックスプールにおいて小体連の水泳練習会があり市内小学生約300人が参加するが、そこにチームのコーチ陣や選手も自由参加で水泳指導を実施する。去年は当日飛び込みで選手も指導をして頂いたので、今年もそのようになることを期待している。次に、期間中市内小中学校の学校給食でオーストラリアの食事を参考にした応援献立を提供する。このようなことを通じて市民のスポーツ気運の向上や長岡のブランドの発信、子どもたちの夢づくり競技力の向上につなげていきたいと考える。

(金澤教育長) 質疑、意見はないか。

(羽賀委員) オーストラリアメニューの献立はどのようなものなのか。

(笠井学務課長) 市内小中学校で統一して、フレンチポテトサラダ、チキンのバーベキューソースがけ、ライ麦パン、トマトスープを提供する。提供期間は、キャンプ期間としているが、多少学校によって前後する。

(金澤教育長) 他に、質疑、意見はないか。

(大久保委員) 今回小学生との交流を行うのは何故なのか。

(水内スポーツ振興課長) 学校への負担を減らしたい、と考えていたためである。交流する学校の選定については、プールの近くの小学校を考えていた。中学校を除いたわけではなく、小学校の方がより水泳の技術の習得や英語での交流といった点で効果が期待できると考え、小学校を選定した。

(金澤教育長) 小学生は親善水泳大会が控えている時期でもある。

(遠藤教育施設課長) 補足だが、中高校生も交流の予定がある。事前に長岡のコーチと交流を行い、その後強化選手の練習を指導していただけることになっている。

(金澤教育長) 他に、質疑、意見はないか。

(鷲尾委員) 小学生 300 人に対してどのように水泳指導を行うのか。

(水内スポーツ振興課長) 昨年度の様子だと、選手はプールの中に入り、コーチはプールサイドで通訳の方が脇につき指導を行っていた。この指導方法で子どもたちと英語でコミュニケーションがとれているのか確認したところ、選手も子どもに十分配慮して下さり、身ぶり手ぶりのジェスチャーを含めながら、水泳の技術を教えられるようなコミュニケーションはとれていたようだ。

(遠藤教育施設課長) 例年この時期に行われる小学生の大会に向けて 250 人から 300 人がダイエープロビスフェニックスプールで練習を行っている。プール 10 コースすべてを使用し水泳協会の指導者が指導にあたって練習をしている中に、オーストラリア競泳チームのコーチ陣 4 泳法の指導者がつく。プールを 4 分割にしてコーチが指導にまわり種目ごとに泳法指導を行う。昨年は、その状況を見ていたオーストラリアのメダリストや記録保持者の選手からも教えていただいた。

(金澤教育長) 水泳ではないが、本日の新聞に四郎丸小学校の児童が車いすバスケットボールの選手と交流を行った記事が掲載されていた。スポーツ振興課ではこのような交流も行っている。

(金澤教育長) 次に、長岡市子どもの学力アップ応援事業補助金交付要綱の制定について 事務局の説明を求める。

(田中子ども家庭課長) 長岡市子どもの学力アップ応援事業補助金交付要綱の制定について報告する。子どもの貧困対策としての新たな取組で、生活困窮世帯への学習支援事業として今年度から新たに実施するものである。この補助金は、子どもたちの学習に係る経済的負担を軽減し、平等な学習の機会を与えることを目的としている。高等学校等への進学を支援する学習塾等への利用に対して補助金を交付する。対象生徒は、長岡市内に居住し、かつ補助金を受けようとする年度において、生活保護を受けている世帯もしくは、就学援助基準に該当する世帯の中学校 3 年生である。補助金交付対象者は、対象生徒の保護者で、補助金の額は対象生徒 1 人につき上限 10 万円である。補助対象経費は、本事業の趣旨に賛同し、参画事業者として市に登録した学習塾等が提供する一般的なサービスの利用に係る経費である。補助金の利用については 8 月 1 日から翌年の 2 月である。現在は趣旨に賛同いただける

学習塾等の参画事業者を募集しており、7月中に中学生に案内を行い申請手続きを受け付ける。

(金澤教育長) 質疑、意見はないか。

(大久保委員) 学習塾等の「等」とは、どのような事業者のことを指しているのか。

(田中子ども家庭課長) 個人経営で学習を教えている所などから幅広く手を挙げていただきたいと考えている。支所地域だと大手の学習塾はないため、このような地域への目配せといった観点と、幅広くこの事業を広めたいという考えがあり、「等」としている。

(金澤教育長) 現在、手を挙げている事業者の状況はどうか。

(田中子ども家庭課長) 今現在5つの事業者が登録されており、このほか、問い合わせも5件いただいている。

(鷲尾委員) 事業者の認定の基準はどうか。大規模な塾ではなく、個人経営の家庭教師の所もあると思う。過去の事業実態なども調査するのか。

(田中子ども家庭課長) 納税しているか等の確認を申請書類で行う。

(金澤教育長) 個人で経営していても、得た収入の税金を払っている事業者でないと認定しない。

(波多子ども未来部長) 事業主登録をしているところを選定する。

(金澤教育長) 他に、質疑、意見はないか。

(金澤教育長) 次に、附属機関等会議報告について 事務局の説明を求める。

(田中子ども家庭課長) 令和元年度第1回長岡市子ども・子育て会議について説明する。会議は、委員16名と小池県立大学教授アドバイザーと関係職員19名にて行った。主な会議内容は、今年度は次期「長岡市子育て・育ち“あい”プラン」の策定を行うことから、この策定方針の説明やグループワークとして「計画策定にあたって大切にしたいこと」をテーマに4つのグループに分かれて議論を行った。その中で、とにかく子どもを真ん中にして考えていくという視点が大切という意見や、周りと協力して関わっていく力、生活力、社会性などをつけることにより、人と繋がる力がつき、最終的に自己肯定感の高い子どもに育っていくことが目標という意見があった。さらに、隣のおじちゃんおばちゃんのような「おせっかい」の視点も必要という意見もあった。今後の計画づくりにおける政策の方向の整理に活かして

いきたいと考える。最後に小池アドバイザーから、子どもの最善の利益が保証されるために、子どもたち一人ひとりが大切にされて育っていくこと、その子どもたちを育てる保護者がゆとりや自信をもって子どもに向き合うこと、そしてそういった子どもや子育て家庭を社会がどう支えていくか、この3点が大切であるとまとめていただいた。

(金澤教育長) 質疑・意見はないか。

(鷲尾委員) 子どもを中心に考えるという視点と、隣のおじちゃんおばちゃんのような「おせっかい」の視点とは、相反するイメージがある。隣のおじちゃんおばちゃんの視点は、従来の価値観や周囲の押し付けのような印象があるので、子どもを中心に考えるという視点とどのように融和させようと考えているのか参考までにお聞かせ願いたい。

(波多子ども未来部長) 子どもの意見を中心にするという考えではなく、子どもの幸せや最善の利益を最優先にするという考えである。そのためには保護者だけではなく、近所の人からのおせっかいが必要で、みんなで子どものことを考えていく、という考え方である。

(金澤教育長) 地域のコミュニティーのひとつにおじちゃんおばちゃんの「おせっかい」も含まれているということである。

(波多子ども未来部長) 子どものことを考えて「おせっかい」すると理解してほしい。

(羽賀委員) 「おせっかい」と聞くとマイナスのイメージがあったと思うが、親に虐待を受けていても言えない場合、一時保護をしてくれるような人が結構いる。このような「おせっかい」のことだと思う。

(金澤教育長) 以上で、協議報告事項を終了する。

(金澤教育長) 次に、催し案内について、補足説明のあるものは挙手願う。

(中山学校教育課長) 熱中！感動！夢づくり教育×アルビBB「ながおか夢授業」を実施する。長岡市を本拠地として活躍する新潟アルビレックスBBの選手が、市内小学校を訪問して2時間程度の特別授業を実施する。7月2日の寺泊小学校から8月29日の新町小学校まで8校にて実施する。プロアスリートと直接触れ合う体験、自らのキャリアや本拠地長岡への思いを聴く講話など、コミュニケーションし

ながら子どもたちの夢を応援する。

(山田中央図書館長) 7月19日から8月12日まで中央図書館において長岡市立中央図書館所蔵版画展を開催する。長岡市立中央図書館が、昭和62年の開館当初美術に力を入れており、その際に収集した現代作家たちの版画や錦絵など約300点を一堂に展示する珍しい企画である。草間彌生さんや南桂子さんの作品、中央図書館の室内装飾の壁面にも使用されている富岡惣一郎さんの作品を展示する。この版画展のイベントとして、7月20日と28日に専門の方を招いて展示解説を行う。入場無料なので、多くの方にお越しいただきたい。

次に、7月30日に中央図書館において講演会「絵本と鳥の巣の不思議 鳥の巣が教えてくれること」を開催する。県立図書館の子ども読書活動推進計画の中の出前講座で、絵本作家で科学者でもある鈴木まもるさんを招いて、長岡市立中央図書館と新潟県立図書館の2会場で講演会を行う。鈴木まもるさんは鳥の巣の研究家で、科学者としてNHKの科学番組にも出演されている。

次に、7月27日から9月8日まで栃尾美術館において、響きあう色彩Ⅱ桐生照子展～ふるさとに心をよせて～を開催する。栃尾出身で現在鎌倉市に在住している桐生照子さんの作品展で、今回60点の寄贈を受ける運びとなった。100号や120号の大作を展示する。

次に、夏休み☆こども造形講座のひとつとして、7月28日に栃尾美術館において夏休み☆こども造形講座陶芸にちょうせん！を開催する。夏休み☆こども造形講座は栃尾美術館の夏の展覧会に合わせて、子どもたちの宿題支援として毎年開催しており大変人気がある。このほか、7月30日から8月12日まで夏休み☆まいにち工作を開催する。美術館の空きスペースで毎日日替わりで様々な工作を行う。

(小熊科学博物館長) 7月2日から8月25日までさいわいプラザ科学博物館企画展示室において第9回長岡藩主牧野家の至宝展を開催する。昨年度、開府400年ということで大々的に開催したが、今年度も引き続き開催する。今回は、牧野家伝来の優品に加えて、近代期以降に牧野家に提供された資料や、牧野家と長岡の人々とのこまやかな交流を示す資料を中心に展示する。小林虎三郎書幅や河合継之助の書状は牧野様より科学博物館が購入した資料である。

次に、7月2日から8月25日まで科学博物館エントランスにおいて、昆虫生体

展示「長岡の昆虫」①を開催する。市内に棲息するクワガタとカブトムシをケースに入れて飼育展示する。それぞれの種の特徴や生態、生息環境を解説する。長岡市にはクワガタが9種類、カブトムシは2種類棲息しており、色々な環境のもとに棲んでいるため、それをじっくり見てもらう。

(田中子ども家庭課長) 7月11日にさいわいプラザにて、長岡市要保護児童対策地域協議会代表者・実務者会議を開催する。ネットワークを構成するメンバーの代表者と実務者が集まる年1回の全体会議である。昨年度の活動状況や今年度の計画、活動の評価等を協議する。次に、子育ての駅7月のおしらせを発行した。お時間のある時にちらしをご覧いただきたい。

(斎藤青少年育成課長) 今年度も親も育つ子育てセミナーを開催する。昨年度からの変更点は、できるだけ多くの方から話を聞いていただきたいという観点から、8回の連続講座すべてに出席いただいていたものを単独での受講も可とした。また、昼だけの開催であったが、仕事で昼の講座に参加できない方のために夜講座を開始した。同じ講師の方に夜も同様の講義をしていただいている。既に昼の部1回と夜の部1回を開催しており、昼の部は定員40人を超える人からの申し込みがあった。夜の部は大久保委員からインターネット環境に関する講座をしていただき男性を含む50人程度の出席があった。

(鷲尾委員) 親も育つ子育てセミナーについて、参加料として1講座200円徴収する理由は何か。

(斎藤青少年育成課長) それぞれの講師の方が用意して下さる資料代として徴収している。

(金澤教育長) その他に報告事項はあるか。

(田辺保育課長) 子ども・子育て会議について、市独自として2つの部会を設けて個別に検討を行っている。そのうちのひとつである、保・幼・小連携ワーキング部会の1回目をこの度開催した。保育園・幼稚園を卒園した園児がスムーズに小学校生活に適応していけるように、学校職員同士や子ども同士の交流を園と学校で行っているが、所属長の異動等により今まで取組ができていたものができなくなってしまうケースがある。保育園・幼稚園・小学校の現場の皆さんに部会のメンバーとなっただき、10人の委員に就任していただいた。それぞれ互いに子どもたちの

ためにどのような連携が必要なのかアイデアを出していただき、実効性のある取組に繋げていきたいと考えている。メンバーは、小学校の校長、小学校教諭、幼稚園・保育園に関しては公立だけでなく、私立の長岡市保育園協会の会長、また、保育士や教諭で現在は保育課職員の者である。第1回目の会議では、それぞれの立場での考えや取組を共有することを目的に、長岡の子どもたちにどのように育ってほしいかの考えの発表や、保育園・幼稚園や学校で行ってきた取組の発表をした。2回目の会議は9月を予定している。2回目・3回目の会議で、子どもたちのために具体的にどのような保・幼・小連携が必要なのか、それぞれの立場から意見をいただきながら皆さんと協議を行っていききたいと考えている。

(金澤教育長) 全国に先駆けて保育・子育て部門を教育委員会に入れた長岡市として、切れ目ない支援という部分をより強化していきたいと考える。

(金澤教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員